

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	すべての子どもたちに安心できる居場所と生きる力を
資金分配団体名:	公益財団法人熊本YMCA
実行団体名:	NPO法人NEXTEP
実施時期:	2022年6月～2023年2月
事業対象地域:	熊本県
事業対象者:	様々な困難を抱える子どもたち（若者を含む）及び地域住民、学生

Version 3.2
日付: 2023年3月14日

I. 事業概要

事業対象者（事業で直接介入する対象者と、その他最終受益者を含む）	こども、若者	事業対象者人数	259人	対象地域	熊本県
事業の総括およびその価値	様々な困難を抱える熊本県内のこども、若者たちに対して、「こども食堂」「学習支援」「職業体験」「勉強会」等複数の形での「接点づくり」に取り組み、延べ259回の接点を持つことができた。そのうち20名を超えるこども・若者とは事業終了時点で継続的な接点を持ち、今後もサポートを続けていく。 また、本事業では若者の居住支援として、「福祉就労で収入が限られる」「様々な背景で家族に頼ることができない」などの18～25才を対象とした支援付シェアハウス「ライト」を整備した。2023年3月以降、順次定員5名の若者支援を長期的に行うことが出来る。本事業の趣旨は、「どんな境遇のこどもたちも、自立、就労など生きるチカラを育むことができる環境づくり」であった。事業実施を通して改めて明らかになってきたことは、将来を考えるためには、こどもたち、若者の「今の充実」が不可欠ということである。そして今の充実を実現する上で、身近に接する大人が「自信」や「希望」を育む関わりが出来るかどうかが重要となる。本事業で築いた「こども若者応援ネットワーク」はそのような価値観を持ってこども、若者と接することの出来る周囲の人々を生み出す場としての価値を持つ。3年、10年				

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	事業スタート時は、困難を抱える子どもたち、若者たちが、将来の仕事や暮らしをイメージしたり、体験する【機会の不足】を課題として設定していた。しかし、事業を通して、「こども、若者の【自信】【希望】が不足していること」がより根本的な課題として見えてきた。 また、この不足は、周囲の大人の関わり方が大きな影響を与えている。 周囲の大人もまた、【不安】【心配】の目で子ども、若者に接しているが、この視線での関わりは、例えば「学校には行かなければならない」とか、「働いて自分で稼がなければならない」といった様々な【押し付け】を生み、本人の意思を否定し【自信を奪う】関わりにつながる。 ～周囲の大人が【安心】できて、こどもたちに【信頼】を寄せて接する時間や機会をどれだけ増やすことが出来るか～ これが、こどもたちに【自信】や【希望】を育む一番の力になると思われた。 事業内容の一つに、「こども・若者応援の個人のネットワークをつくる」ということを掲げて実施したが、これの当初の目的も「職業体験」等「体験の機会づくり」の協力者を増やすことと捉えていた。しかし実際には「自信」や「希望」を育むという価値観を共有したり、
-------------------	--

III. アウトプット（今回の事業実施で達成される結果）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
子ども・学生	就業困難	こども若者を応援する個人のネットワークづくりを通して、困り感のあるこども若者が、応援者となる個人とつながることができる地域環境がある	LINEビジネスチャットの登録数	1グループ、50人以上登録	1グループ、16人	安心感のある関係性を担保しながら広げることが重視した結果、数値は達成できなかったが、質が良かったため、今後着実に増えていくと思われる。
子ども・学生	その他	学習支援、こども食堂、職業体験活動の実施を通して、困り感のあるこども・若者を個々に必要なサポート者、またはサービスにつなげ、継続して支援・応援される関係性をつくる	無料相談への参加+主催プログラムへの参加+外部機関・個人への紹介	100件	259件	主催プログラムへの参加による接点数でかつ大人を含めた環境づくりとしての接点数である。受益者である子ども・若者の数は25名。
その他	居場所の不足	支援付シェアハウスの整備によって、困難を抱えながら自立を目指す若者が、安心して利用できる住居を利用することができる	整備状況、入居状況	1棟の完成+1名以上の入居	1棟の完成 1名の入居（2023.3月）	賃貸物件のリフォームで整備。「要件に合う」かつ「理解あるオーナーとの出会い」など縁が重なり実現できた。

IV. 短期アウトカム（事業終了後に目標とする状態）*

事業実施以降に目標とする状況	困りごとのある子どもや若者が、 ①「こども・若者の就労支援」ネットワークが通じて、複数の相談できる大人とスムーズにつながることが出来る体制。②「NEXTEP拠点の活用」×「他団体・個人との連携」で、困難を抱える子どもたちが「職業体験」「住居」「こども食堂」「こころのケア」等を得られる体制。③支援付シェアハウスを通して、若者が相談できる大人の支援がある生活環境を得ている。
考察等	①②を目指して、つながることが出来る体制のひとつのモデルとして、【こども若者応援ネットワーク】というグループを立ち上げ、月1の定例会としての「焚火会」を実施している。他団体の方からの参加にもつながり、関連してサポートが必要なこどもたちとの接点が出来たり、安心して過ごせる居場所と繋げることが出来た。引き続き関係性を築きながら、法人で出来ることや、他機関との連携でサポートを行っていく。③事業期間の2月には間に合わなかったが、3月末に入居予定の若者1名がいる。相談できる大人として管理人が生活を共にする体制を築くことが出来た。

V. 活動

活動	進捗	概要
◆勉強会	形式変更を含め回数を減らして実施	シェアハウス運営者（勉強会形式と個別の打合せ形式にて）／若者向けお金の管理に関する勉強会
◆学習支援	ほぼ計画通り	熊本大学の学生を中心としたグループ「ドリカムキッズ」による貧困家庭等を対象とした学習支援
◆体験学習	ほぼ計画通り	「パティシエ体験」「ヘルパー見学」「プログラマーヒアリング(zoom)」及び個別面談を実施した。
◆支援付きシェアハウスの整備	ほぼ計画通り	勉強会、見学、物件選定～リフォームを実施しR5年3月より1名利用開始予定。
◆こども若者支援のための相互扶助個人ネットワークづくり	ほぼ計画通り	LINEグループを作成し、月1回の定例の集まりを設定。相談し合える場づくりを継続している。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	<p>○子ども・若者を直接支援することを主なアプローチとして捉えていたが、【家族、支援者など子ども・若者に関わる周囲の大人たち】が、「安心」し、日々を「楽しんでいる」状態になれるような環境づくりを行っていくことも、重要度が高いテーマであると気づいた。</p> <p>○子ども食堂をはじめ、福祉的コミュニティづくりに取り組む団体が熊本県内に複数あり、団体同士で支援し合える横のつながりが出来たこと。</p> <p>○子ども、若者応援コミュニティの重要なコンセプトに「楽しんでいる大人」という要素を見出した。子どもを取り巻く環境を形作るの一人ひとりの大人たちの態度の集合体としての社会であると捉えた場合に、大人たちが「楽しんでいる」結果、こころに余裕があることが、子どもたちが居心地良く、自信を育みながら育つことの出来る環境になる。</p>
---------------------	--

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	<p>【対象者である子ども・若者の変化、成長】は当事業を含める環境からの働きかけをきっかけの一つにししながら、「個々のタイミング」で、「十人十色の形」で何よりも「本人の意思」で起きる。</p> <p>例えば当事業期間内でもAさん（10代）は定期面談と社会人へのヒアリングの機会等を通して、自分に足りないものとして人とのつながりが必要と考えるように心境の変化があった。Bさん（10代）はシェアハウスへの入居への検討を通して、自活することへの希望を感じ、将来に目を向けるようになった。</p> <p>【次の活動】は、今回少しずつ築くことが出来ている"受益者が「信頼されている」と感じられるような安心の関係性"が、複数の大人や近い年代の仲間などと継続されるよう交流の機会や場を継続し、またそのような場の存在や価値観を発信する。</p> <p>また、この関係性の土台の上で、本人が希望する場合には地域の企業・事業者との連携で生の体験を提供できるような取り組みを実施したいと考える。</p>
-----------	--

VIII. 外部との連携実績

連携先	実施内容・結果
一般財団法人 くまもと未来創造基金	休眠預金事業実行団体へのイベント等の周知協力。焚火の会への参加からサポートが必要なおさんとの接点が出来た。
合同会社 100年ボンド	情報交換から事業のブラッシュアップ/結果：福祉的コミュニティに関する考え方、居場所づくり事例としての100年ボンド見学実施ほか。
株式会社こうし未来研究所	シェアハウス物件探しについての相談/結果：理解あるオーナーで、かつ5部屋作ることができる物件を紹介頂いた。
Hidamari株式会社	シェアハウスの具体的運営に関する相談/結果：運営上のルール事例、契約などについて具体的事例を情報交換。またブログで紹介頂いた。
くまもと若者サポートステーション	情報交換/結果：くまもと若者サポートステーションを当事業でサポートしている若者へ選択肢として案内。

IX. インプット（最新の資金計画書をもとにご記載ください。精算金額と一致させる必要はありません）

		計画額	実績額	執行率
事業費	助成金の合計	9,664,000	9,664,000	100.0%
	自己資金（計上している場合のみ）	0	0	#DIV/0!
合計		9,664,000	9,664,000	100.0%
補足説明		特に無し		

X. 広報実績

広報内容	内容
1.シンボルマークの活用状況（掲載箇所を記載してください）	NEXTEP公式ホームページ：休眠預金等活動助成金「支え合う多様なコミュニティづくり支援事業」紹介ページ NEXTEP通信Vol.37、NEXTEP通信Vol.38 シェアハウス玄関への掲示
2.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	instagramによる広報 計7回 ①10/26②10/31③11/8④11/22⑤12/11⑥1/9⑦1/21
3.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	2022.8.10実施「お菓子作り教室」チラシ
4.報告書等	NEXTEP公式ホームページ：休眠預金等活動助成金「支え合う多様なコミュニティづくり支援事業」紹介ページ内 報告

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績	状況	内容
※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)		
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	
4.上記設問3で「一部公開」または「未公開」を選択した場合、その理由と公開予定日を記載してください。		
5.変更があった規程類に関してに資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
6.上記設問5で「変更があったが未報告」を選択した場合、その理由を記載してください		
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.上記設問1で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください		

3.内部通報制度は整備されていますか。	はい	
4.上記設問3で「はい」を選択した場合、設置方法を選んでください。	内部に窓口を設置	
5.【非公開】上記設問3で「はい」を選択した場合、内部通報制度への通報の有無を回答してください。	通報はなかった	
6.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	いいえ	
7.上記設問6で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。	定期では行っていないが、利益相反が発生する契約にあたっては理事会で決議を経た上で熊本県へ届け出を行った上で契約をしている。	
8.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
9.上記設問8で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。		
10.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置しましたか。	はい	
11.上記設問10で「いいえ」を選択した場合、その理由を記載してください。		
12.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	いいえ	
13.【任意】上記設問12で「はい」を選択した場合、どのような検討・実施をしたか事例を記載してください。		
14.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査 <input checked="" type="checkbox"/> 内部監査 <input type="checkbox"/> 実施予定はない	
15.上記設問14で「外部監査」「内部監査」を選択した場合、実施者や実施内容について簡単に記載して下さい。	監事による月1回の監査を実施し、会計監査及び事務局からの事業内容報告を行っている。	
16.【非公開】報告対象となる不正行為を資金分配団体に報告済ですか。	不正行為はなかった	
17.上記設問16で「不正行為があったか未報告」を選択した場合、その理由を記載してください。		
18.【非公開】代表者変更・役員変更・住所変更等があった場合に通知書の提出を行っていますか。	変更があったが未報告	

XII. その他

自由記述

【添付資料】

活動の様子がわかる写真 5枚程度

JANPIAの事業報告書やWEBサイト、SNS等で公開可能な写真を5枚程度（1枚2MB以下）ご提出ください。（肖像権・著作権に十分にご注意ください。）

それぞれどんな場面の写真なのか、1枚あたり50字から200字程度で説明を記載していただきますようお願いいたします。

※ご提出をもってJANPIAでの使用にご了承いただいたこととし、使用時に改めて確認はいたしませんので、ご承知のうえ、使用に差支えない写真（使用許可をとった写真や個人が特定される写真を避ける等）を選んでいただきますようお願いいたします。